

【ゆいま～るセミナー】



佐竹重彦 医院長

在宅医療とは何か？

多くの方は、「自宅で最期まで暮らしたい」と望まれています。家族に囲まれながら、あるいはひとりでも自宅で最期を迎えたい、そんな方の支えとして木の香往診クリニックを開業して9年目になります。

在宅医療は、一般的な病院と何が違うのでしょうか。病院の場合は、治療して退院することが目的です。しかし、在宅医療の場合は、まずはご本人の意思を尊重し、ご家族と相談しながら望まなければ医学的な治療を行わない選択をすることもあります。

す。そういった方針決定に基づいて医師、看護師、介護士、ケースワーカーと共有、連携しながら本人の生活を支えていきます。生命維持を目的に積極的に治療介入するのではなく、本人の望みを支えるのが目的です。

在宅医療は、基本的にはひとりでの通院することが困難な方が対象です。通常、自宅や施設に月2回定期的に通い、体調の変化を診たり、薬の処方をしたりします。水分をとる時むせるなど「とらみをつけて飲んでみてく

ださい」など、医療面・生活面でのアドバイスもします。「悪くなった時だけ来てください」と言われることもありませんが、いきなり診察するというのは難しいです。関係性も含めて、その方の状態を常日頃知っておくことが大切だからです。必要ならば、病院へ紹介するなど、間に

最期まで看取れる体制づくり

最期が近づくとうなるのか、イメージできないことが不安につながります。個人差はありますが、だんだん動けなくなったり、だんだん寝てしまったり、食事量が減ったり、嘔下機能が低下し食べられなくなったり、数

入ることもします。在宅診療のメリットは、住み慣れた環境で過ごせることです。ただし、医療者が24時間いるわけではないので、急に状態が変わった場合、病院のような素早さで医療者が対応することは難しいです。

ケ月から数年と開きがあります。寝ている時間が多くなって、目を開けない、話さなくなる。次に、無呼吸などいつもと呼吸パターンが違ってきます。肩で呼吸をしたり、顎だけで呼吸をし出したら、かなり死期が近いで

おひとりさまでも最期まで自宅は可能！

在宅医療の最前線から語る

木の香往診クリニック・佐竹重彦院長に聞く

「最期まで住み慣れた自宅で」また、「自宅で家族を看取りたい」と思っている方は多いのではないのでしょうか。11月29日、名古屋市金山研修センターにて、在宅医療の第二線で活動されている「木の香往診クリニック」の佐竹重彦院長をお招きし、そもそも在宅医療とは何か、そして自宅で最期まで暮らすための心がまえ等についてお話いただきました。23名の方が参加、活発な質疑応答もあり、充実したセミナーとなりました。

※木の香往診クリニックは、ゆいま～る大曾根、ゆいま～る神南の協力医療機関です。

す。病気によってもスピードが違いますが、イメージしておく不安感が減ると思います。木の香往診クリニックでは、年間約160の看取りをしています。がん末期の独居の男性(76歳)をお看取りした時は、病状に合わせて徐々に訪問の回数を増やしました。最期が近い状態が見えてきた時、本人を含め、医師、看護師、介護士、ケースワーカーで話し合い、「自宅で最期まで」という方針を確認しました。その後も連携して状態を報告しあい、必要に応じて訪問看護、訪問介護の回数を増やし、しっかりと看取れる体制づくり、訪問診療をはじめから75日



参加者の質問に
入居者が
お答えしました

スポンジ生地や
素材にこだわった
ソーネカフェの
特製ケーキ

「ほっこりお茶会」が 開かれました♪

12月7日、ソーネおおぞね「ソーネホール」にて、ゆいま〜る大曾根に関心のある方とお住まいの方12名によるお茶会が開かれました。ソーネカフェ特製ケーキとお茶をいただきながら、「住み替えた理由は？」、「新たな人間関係は？」などの質問に対して、「古い戸建だったので災害が心配だったから」「入居者が立ち上げた様々なサークルがあるので参加されてみては」と答える入居者の皆さん。和やかなひと時となりました。

詳しい会の様子はゆいま〜る大曾根のホームページ(ブログ)をご覧ください。

<https://yui-marl.jp/ozone/>

名古屋に
ふたつめの「ゆいま〜る」

ゆいま〜る神南

第1期オープン!! 見学会開催中



いよいよ入居が始まりました。
生活相談にのるスタッフ

[お申し込み・お問合せ・ご相談]

フリーダイヤル
0120-812-560

ホームページ
<https://yui-marl.jp/jinnan/>

〒455-0021
愛知県名古屋市港区木場町
6番18 ビレッジハウス
木場タワー101

ゆいま〜る 大曾根

現地見学会・毎日開催

[お申し込み・お問合せ・ご相談]

フリーダイヤル
0120-155-273

ホームページ
<https://yui-marl.jp/ozone/>

〒462-0810 愛知県名古屋市北区
山田二丁目11番62号
大曾根併存住宅1棟1階



熱心に聞く参加者

▼目、ご本人の希望通りに自宅
で最期を迎えられました。
高齢になるほど、急に体調の
変化が訪れるのは避けられませ
ん。状態が悪くなった時に自宅
に最期までいたいのか、あるい
はいったんは病院で治療したい
のか、ご家族がいればよく話し
合せて、事前に皆様の同意を得
る。

Q&A

先生のお話を受けて、活発な質疑応答が
なされました。一部ご紹介します。

ておくことが望ましいです。病
院と在宅診療、それぞれメリッ
ト・デメリットがあり、どちら
がいいというわけではありませ
ん。決断したら変えてはいけな
いということではないので、常
に自分の意思を確認することが
大事です。

うことを許容して、それでも自
宅で最期までいたいという希望
を持たれている方がおひとり
います。人間の最期は病気に
かわらず、一般的には先ほど述
べたとおりです。病院だと生命
維持が目的ですから、痰が出た
ら吸引して、採血データなどを
みて脱水だと点滴をします。点
滴をすれば水分は確保されます
ので痰の量は増える傾向にあり
ますが、本人にとっては痰が出
ないほうが楽な場合もあります。
よって私たちは苦痛緩和のため
に点滴を減らす選択をすること
も多いです。

終末期になって訪問が頻回に
なっても、最期に誰もいないこ
ともある。そこが、ご家族がい
る場合とおひとりの場合は違
います。それを理解し、それでも
「最期まで自宅」を望まれば、
おひとりでも可能です。おひと
りでも苦痛のない状態を作るた
めに、私たちがその人の最期を
できるだけ楽に迎えさせてあげ
ないといけないということだ
す。ほかに、「地方でも在宅は可能
か」「月額費用はどれくらいかか
るのか」などの質問もありまし
た。詳しくは、ゆいま〜る大曾根・ゆ
いま〜る神南のホームページのブ
ログに掲載しています。

<https://yui-marl.jp/ozone/>
<https://yui-marl.jp/jinnan/>